



段階的避難???

三月四日NHKのクローズアップ現代で「原発防災～避難の課題」が放送された。

福島原発の事故の際、原発に近い所から順に段階的に避難するよう指示された。皆が一斉に避難した時の渋滞を避ける目論見であった。

実際には、五キロ圏が避難し、十キロ圏の病院が避難を開始すると、既に道路は大渋滞。「室内待機」とされた人々まで避難を開始していた為、渋滞になったのだ。

目の前を避難民が通る

自分らより原発に近い人々が、目の前を通って避難するのを見たら、貴方はどう思いますか？自分の居る所が安全なら「ここまで逃げれば安全」と車を止めるだろうに、更に遠

くに逃げる。此処は安全では無いと思うのが当然。「室内待機と東電や政府が云う裏に何かあるのではないかと逃げるのは当然だ。「段階的避難」は実現不可能だ。

花火工場では

花火工場は周りに土手を設け爆発の危険が外部に及ばないようにしている。それだけの敷地がなければ工場の設置を誰も認めない。

原発も同じ。何か事故があっても、周辺住民に一切危害が及ばない敷地がなければならぬ。しかし、それには、半径二〜三十キロが必要。因みに東京駅と横浜駅の距離が約二十九キロ。これは不可能。つまり、原発は運転出来ないのだ。皆さんはどう思われますか？

房総の段丘

海の駅

伊戸いとだいぼう工房から
二〇一三年十月



昨年秋、バイクで房総半島南部を走った。房総半島の南西端の洲崎を南に回ると房総フラワーラインになり、道の駅ならぬ海の駅「伊戸だいぼう工房」がある。

ここ、房総半島の先端は、大地震の度に隆起してきた所だ。

一七〇三年の元禄地震では洲崎は五mも隆起。右手にある家々はその時隆起した所にあるようだ。一九二三年の大正関東地震でも一・八m隆起。目の前の岩礁は、この時、海底にあった岩場の頭が海面上に現れたのだ。

白浜の辺りでは地盤の隆起によって、海岸線が元禄地震で五百m、大正関東地震で百m沖合に移動したという。

一方、鋸山のある鋸南町や鴨川の辺りは元禄地震の時、逆に沈降したそうだ。